



## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)平岸2条5丁目プロジェクト	階数	地上13F
建設地	札幌市豊平区平岸2条5丁目9-1,9-3,12	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	300人
気候区分	1地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	物販店、病院、集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年10月6日
敷地面積	1,814 m <sup>2</sup>	作成者	松本拓也
建築面積	956 m <sup>2</sup>	確認日	2016年10月7日
延床面積	6,755 m <sup>2</sup>	確認者	定森淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.7</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超:☆☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値: 0 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>③上記+②以外の: 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>④上記+: 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p><b>Q1 室内環境</b></p> <p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p>

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質** **Q のスコア = 3.3**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p><b>Q1のスコア = 3.7</b></p> <p>音環境: 3.4, 温熱環境: 4.4, 光・視環境: 3.6, 空気質環境: 3.2</p>	<p><b>Q2のスコア = 3.6</b></p> <p>機能性: 4.0, 耐用性: 3.2, 対応性: 3.3</p>	<p><b>Q3のスコア = 2.5</b></p> <p>生物環境: 2.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 2.5</p>

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.6**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p><b>LR1のスコア = 4.2</b></p> <p>建物外皮の: 4.8, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 4.8, 効率的: 3.0</p>	<p><b>LR2のスコア = 2.7</b></p> <p>水資源: 2.2, 非再生材料の: 2.8, 汚染物質: 3.3</p>	<p><b>LR3のスコア = 3.6</b></p> <p>地球温暖化: 4.6, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.2</p>

**3 設計上の配慮事項**

総合	A 省エネルギー
<p>・省エネルギー性能、省資源への配慮をそれぞれ行い。</p> <p>・基準以上の緑化を確保し、雪処理への配慮を行う。</p>	<p>・高性能断熱材、LED照明等の高効率設備機器の採用。</p>
B 省資源等	C 緑化
<p>・50ニ丁掛タイル貼、大判タイル、アクリル系吹付タイルや空調、給排水管はB以上を多用等、耐用年数の長い部品、部材の採用。</p>	<p>・基準の3倍以上の外構緑化を行っている。</p>
D 雪処理	<p>・融雪設備の設置。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される